就労後の定着支援：「就職してから」が本当のスタート

離職を防ぎ、長く働き続けるための伴走サポートと活用法



NotebookLM

「採用されたから大丈夫」という誤解

就職が決まると、周囲は「よかったね」で終わりがちです。
しかし実際は、就職後1〜6か月に課題が集中します。
一人で抱え込むと、**見えない疲労が蓄積してしまいます。**



NotebookLM

定着支援は「困ってから」ではなく「困る前」に

困ってから相談する



悩みを行動に移せず、
離職リスクが高まる。

困る前に共有する



小さな違和感を早く共有できる体制があり、
離職リスクが下がる。

悩みを言語化できた時点で調整の幅が広がり、継続につながりやすくなります。

NotebookLM

変化を放置しない「4つの初期確認項目」

就職後に初めて見える課題は少なくありません。
初期フォローでは、以下の4点を定期的に確認します。



勤務時間の負荷



睡眠状況



業務理解



相談しやすさ

初期フォローを前提にすることで、継続率は大きく上がります。

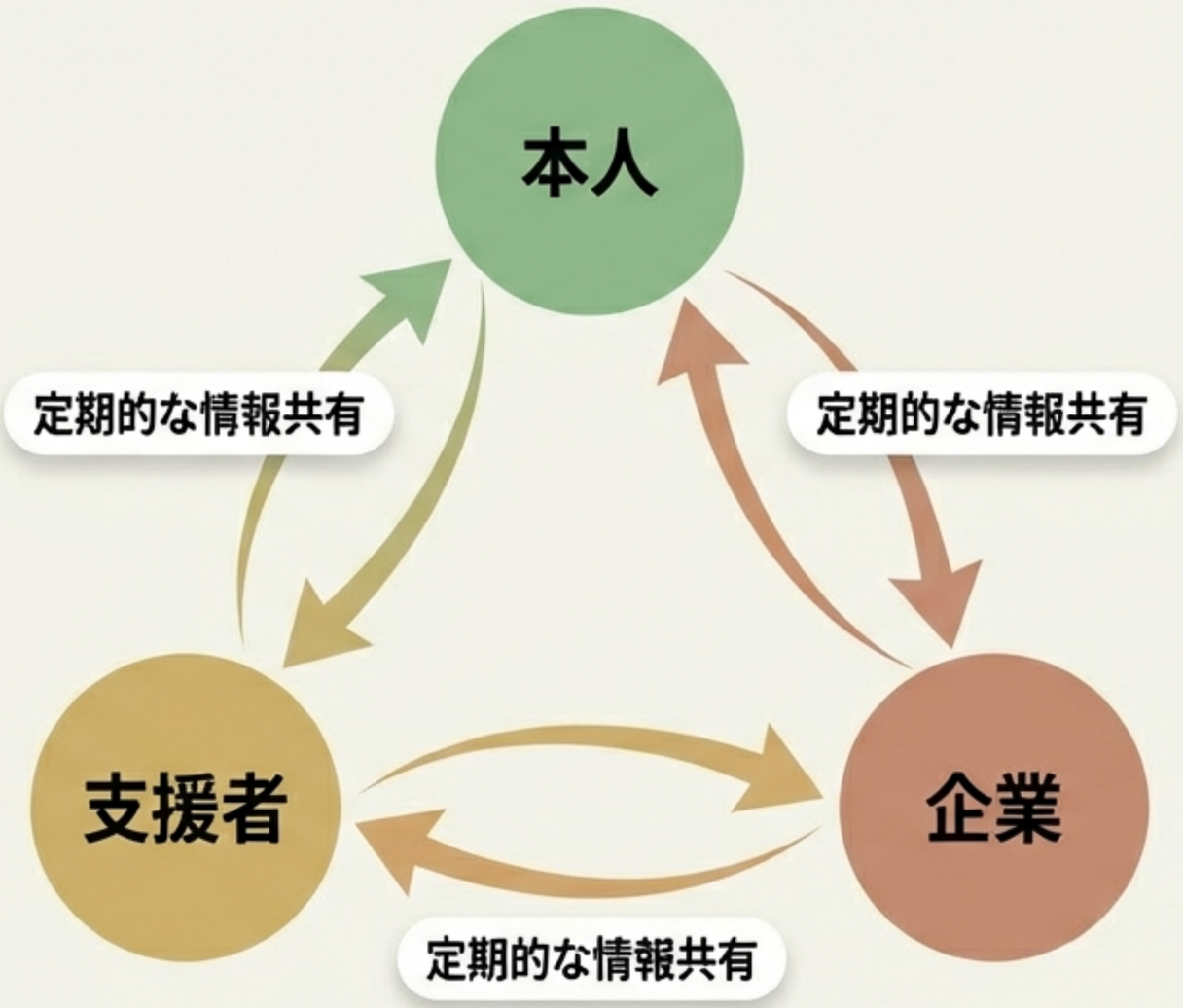
NotebookLM

孤立を防ぐ「三者連携」のメカニズム

- **本人面談：**
  就職直後ほど面談頻度を高く設定。

- **企業連携：**
  業務量、指示の出し方、休憩ルールなどの微調整を早期に実施。

- **相談の工夫：**
  「困ったら連絡」ではなく、週次で短い定例連絡を設定し、早期共有が自然に起きる環境を作ります。



NotebookLM

実例：初期フォローが離職を防ぐ

業務量や休憩ルールを少し修正するだけで、働きやすさは大きく変わります。



1か月目

疲労が強まり、
退職を考える状況に。

定着面談で課題を共有・
企業と勤務調整を実施。

2か月後

働き方が安定し、
継続就労へ移行。

NotebookLM

あなたは当てはまる？ セルフチェック

今どこに負担があるかを見つけるためのリストです。1つでも当てはまれば、定着支援を活用する十分なサインです。

- [ ] 就職後の継続が不安
- [ ] 困りごとを抱え込みやすい
- [ ] 企業との調整をサポートしてほしい
- [ ] 早期に離職を防ぎたい

気になるものを選ぶだけで、
次の行動を決める
「調整材料」になります。

NotebookLM

アイデンドの伴走アプローチ：「本人任せ」にしない

- 就職初期の高頻度フォロー
- 企業連携を前提とした調整支援
- 不安や体調の揺れを毎回共有し、生活調整に反映



支援員より

「就職後に困りごとが出るのは自然なことです。困った時にすぐ言えると関係を作っておくことが、定着支援の土台になります。」

NotebookLM

実践メモ：最初の14日間のロードマップ

就職後の定着は、就職時点でほぼ決まります。
相談ルートを先に用意しましょう。

1〜3日目

不安な場面を3つ想定し、対応先を決める。

4〜7日目

企業側と本人側で共有する配慮事項を文書化する。

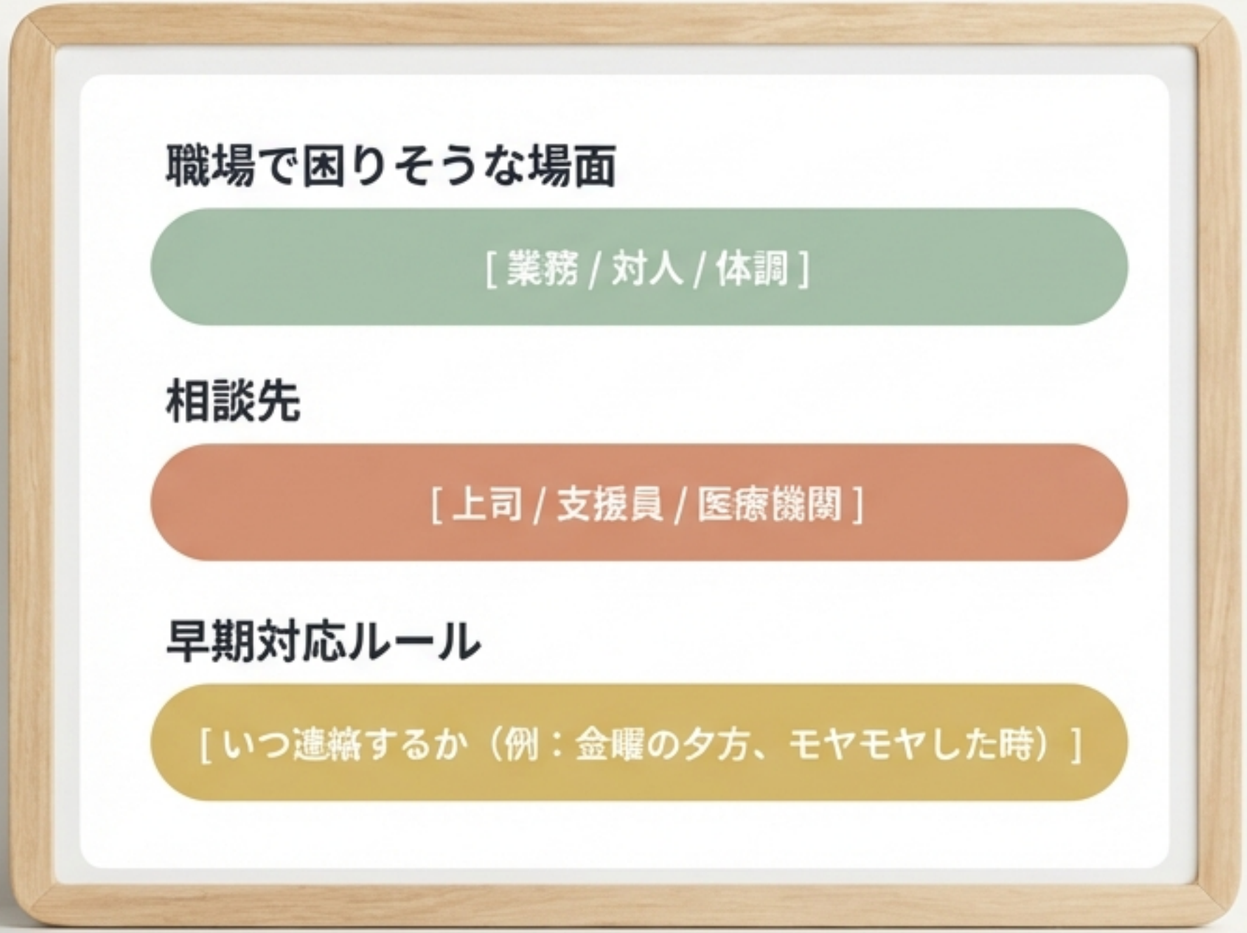
8〜14日目

定着支援面談の頻度と連絡手段を固定し、早期対応の流れを作る。

NotebookLM

困る前に埋める「共有メモ」フレームワーク

“困ってから相談”ではなく“困る前に共有”が定着のコツです。



就職を目指す際は、
この具体内容を事前に
作っておきましょう。

NotebookLM

よくある質問：遠慮や不安を解消する

Q. 企業に迷惑をかけないか心配です。

A. 早めの相談は企業側の負担軽減にもつながります。
困る前に共有できると、企業の調整コストを小さく抑えられます。

Q. 困りごとが小さいと相談しづらいです。

A. 小さい段階での共有ほど調整しやすいです。
「今週ここが少しつらい」と短く伝えるだけでも十分です。

Q. 定着支援はどのくらい利用できますか？

A. 就職直後は面談頻度を上げ、安定後に段階的に減らす形が一般的です。

NotebookLM

完璧さより「戻ってこられる仕組み」を

就労後の定着支援は、離職防止に直結する重要な支援です。
一人で完璧を目指す必要はありません。

1. 初期フォローを厚くする

2. 行動レベルで課題共有する

3. 企業連携で調整を早める

就職はゴールではなくスタート。安心して挑戦を続けるための「セーフティネット」として、定着支援をフル活用してください。

NotebookLM